



各世代におけるポスト  
コロナ社会での課題

田中 和美 (公明党)

●高齢者、独身、働く世代、各世代におけるコロナ禍の課題について

問 高齢者、特に一人暮らしの方の健康が危惧される。緊急時の通報で、現在の自宅設置型の固定電話だけでなく、外出時でも通報可能な利便性の高い、モバイル型緊急通報システムも導入し、併用運用も必要と考えるが、本市の見解は。

答 現時点ではコストが割高になるなど、導入は厳しいが、今後スマートフォンなどが、一般的な通信手段になることを想定し、新たな見守り手段も研究していく。

問 外出自粛で出会いの機会も失われ、昨今の晩婚化傾向がさらに助長される今、A1によるマッチングが大変注目されている。このA1婚活事業であるSAITAMA出会いサポートセンターへ

の参加状況と成果は。

答 2018年に開始され、翌年から本市も参加している本事業では、県全体で74件の成婚のうち、4件が本市の方で、参加人数からみた成果割合は高く、参加した意義は非常に大きいと考える。

問 今後の周知と成婚に対するお祝い等の取組は。

答 市ホームページやチラシ配布のほか、出張登録会場として手を挙げ、参加者の増加を図りたい。お祝いは、他市の取組を参考に検討していく。

問 テレワーク支援に対する本市の取組は。

答 中小企業者向けの補助金交付のほか、図書館等をテレワークスペースとして利用することが可能である。

問 「(仮称) 行田市障がい者差別解消推進条例」制定に向けた進捗について

○(仮称) 行田市障がい者差別解消推進条例」制定に向けた進捗について



星川改修事業の進捗状況について

吉野 修 (黎明21)

●馬見塚橋の取扱い

問 見沼代用水路合流点から整備が進み、現在、本市管理の馬見塚橋のたもとまで堤防が築かれていくが橋はどうするのか。

答 県との協議では、橋は老朽化が著しく構造上の課題もあり、技術的に現状のまま残すことは困難と認識が一致している。

問 橋の長さが堤防の間隔より短いため、橋が狭くなり、増水時の流下に支障が出るのでは。

答 橋の長さが河川法や河川管理施設等構造令の基準を満たしていない。

問 橋の高さはどうか。

答 橋の桁下と堤防の天端の離隔を60cm以上確保することが必要である。

問 橋の長さを満たすには橋桁を1.5m程度引き上げ、橋脚を継ぎ足し、両

端に橋桁を継ぎ足す改修が必要になるが、その規模では造り直しと同じである。架け替えの場合北進大橋のような勾配の道路が必要になるのか。

答 橋が堤防より高くなるため、すり付け道路が必要となり、周辺の住宅への影響も考えられる。

問 馬見塚橋の取扱いは、これまで長い時間が流れ、北部地域の取り残された課題となっている。幸いにも橋の崩落や通行車両の事故などは発生していないが、不作為の人災とならないよう、早期に対策を検討すべきでは。

答 橋は市民の皆さんが日常的に利用する重要な道路施設である。利用者の安全安心を第一に適切な維持管理に努め、県と連携を図りながら慎重に取扱いを検討していく。

○産業団地の進捗状況

○産業団地の進捗状況



河川環境の整備保全、農業経営の強化、利便性を高めるまちづくり

小林 修 (市民と共に働く会)

●河川環境の整備保全

問 忍川の治水対策である河川の河道拡幅及び調節池の進捗と今後の5カ年事業のスケジュールは。

答 県では現在、来年度の新規事業採択及び5カ年事業について、国と協議調整中で、事業決定された後、説明会の開催や施工時期、方法について検討することとされている。

問 田んぼタムの取組について、実施団体数、工法、要綱の整備及び予算はどうか。

答 17の多面的機能活動組織に一時貯留の協力を依頼した。なお、排水口の工法、要綱の整備及び予算措置の予定はない。

問 災害対策を重点的に進める本市の国土強靱化地域計画の取組状況は。

答 市民の生命と財産を守るため、極めて重要なものと認識しており、本年度中に策定予定である。

●農業経営の基盤強化

問 農業経営者の育成・確保、新たな担い手への支援体制整備、国や県の補助金を活用した農業経営の法人化の取組状況は。

答 新たに就農を希望する方への相談窓口を開設し、農地の斡旋、技術指導及び経営指導を実施している。また、国の補助事業を活用し、地域の担い手としてサポートするほか、法人化に当たっては、県において、専門家のアドバイスを受ける体制が構築されている。

●利便性を高めるまちづくり

問 予防保全型の維持管理である道路長寿命化修繕計画の目的、路線、点検方法及び診断結果は。

答 トータルコストの削減を目的として幹線道路6路線を対象に、専用車によりひび割れ等を計測し、本年度中にまとめる。